



2023年11月1日

各位

会社名 ポート株式会社  
代表者名 代表取締役社長 CEO 春日博文  
(コード番号：7047 東証グロース・福証Q-Board)

問い合わせ先 常務執行役員兼 辻 本 拓  
財務 IR 部長

TEL. 03-5937-6466

## 投資家Q & A

2023年10月

2023年10月に機関投資家様・個人投資家様より頂戴した主なご質問とその回答についてレポートいたします。

本開示は投資家様への情報発信の強化とフェアディスクロージャーの観点より、毎月月初に開示を予定しております。また、理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

### Q. プライム市場等への市場変更は、検討されていますか。

A. 当社は、前期2023年3月期で達成しました中計期間（3ヵ年）の売上収益年平均成長率は56%の実績となり、2024年5月12日に公表している新たな中期経営計画においても2026年3月期までの売上収益年平均成長率約30%と高い成長の持続を目指しております。

そのメインドライバーとなる人材支援サービス、販促支援サービス エネルギー領域では圧倒的な No. 1 のポジションとなるよう取り組んでおります。

その高い成長性を現在のグロース市場において、皆様に適正にご評価いただくことがまずは大事なことと考えております。

なお、市場変更とは別に、高い成長、当社既存事業での No. 1 のポジションを目指すとともに、ガバナンス強化にも取り組ませて頂いており、8月に公表させて頂きました「[リスク管理および内部統制システム運用体制強化について](#)」をはじめ、ガバナンス強化の取組も随時皆様にご報告していきたいと考えております。

### Q. 人材支援サービス、エネルギー領域それぞれの売上目標を100億円と掲げていますが、時期はいつと考えていますか。

A. 目標達成時期を開示させて頂いておりませんが、人材支援サービス、販促支援サービスエネルギー領域ともにオーガニックな成長も非常に強くあり、今回調達させて頂いた成長投資資金によるロールアップ型M&A含めたインオーガニック成長も加えて、早期に100億円を達成したいと考えております。

### Q. INE社の2024年3月期1Qの事業利益率は20%弱で、Five Line社の2022年度売上1,987百万円に対し営業利益74百万円で営業利益は4%しかありませんが、なぜでしょうか。INE社が高すぎて今後下がるのか、Five Line社が何らかの理由があって今後上がるのかご教示ください。

A. Five Line社のM&A時の開示に記載させて頂きました2022年3月期業績数値（買収前）には、電気・ガスの成約支援事業の他に、フィットネス事業をFive Line社が行っており、こちらのフィットネス事業が赤字であることが影響しております。

フィットネス事業は当社の買収対象ではありませんので、譲り受けておりません。また、Five Line社は集客チャネルにおいて不動産中心に対して、INE社はWeb中心でありそれによる収益性の影響もごございます。また、業績規模の違い等（INE社の方が大きい）も影響ございます。INE社の利益率が高すぎるという点はございません。

また、INE社に加えてFive Line社が当社グループに加わることで、国内最大規模の電力成約支援事業者となり、電力事業者に対するプレゼンスが更に高まることでのシナジー効果も期待できます。

Q. 中期経営計画では売上高と EBITDA のみ目標値がありますが、親会社の所有者に帰属する当期利益は今年度 1,460 百万円の予想に対して概ね 20-30%CAGR で進む想定ですか。

A. INE 社が 2023 年 7 月から完全子会社となっている点がございしますが、その点以外は前期実績 1,074 百万円からの成長率と中計 EBITDA 成長率は償却コストの増減によって変化する部分は出てくるかと思いますが、概ね同水準の成長と捉えて頂いて問題ございません。

Q. INE、Five Line の営業利益に関して、基本的に借入金の返済とほぼ相殺するような想定ですが合っていますか。

A. INE、Five Line の M&A 時の借入の返済といった点では（キャッシュフロー上では）、各社のキャッシュフローを返済原資と見ておりますが、実際に両社が生み出すキャッシュフローが成長していけば、CF 上もプラスになりますし、PL 上では、IFRS でのれん償却はございませんので、売上だけでなく、利益も寄与することになります。これは Five Line 社の 2Q から同様（連結 PL への利益寄与）となります。

Q. 2024 年 3 月期の計画値では EBITDA と将来収益込み EBITDA の差分 7 億円ということですが、毎月どれくらいストック収益を積み上げていくことになりますか。

A. 今期（2024 年 3 月期）では通年で約 7 億円の将来収益込み EBITDA の計上となり、1Q で 95 百万円の将来収益込み EBITDA 計上となっておりますので、2～4Q において残り 600 百万円の将来収益込み EBITDA 計上の計画となります。ストック収益数値につきましても、皆様に定量的にお示しするために、2Q 決算から開示資料に盛り込んでいきたいと考えておりますので、数値自体につきましてはお待ちいただければ幸いです。

Q. 2024 年 3 月期 1Q の当期利益の通期計画対比での進捗が悪い理由と、2Q 以降改善する要因を知りたいです。

A. 2024 年 3 月期 1Q の親会社の所有者に帰属する当期利益の前年同期比が税前利益までの前年同期比に対して伸び率が低い点については、通年利益計画に対して前期の 1Q 利益進捗率に対して今期の 1Q 利益進捗率が高い点があること、IFRS 基準で当社が現在行っている四半期ごとの計上方法の影響等もあり、1Q の税率が約 40%と高くなっている点がございします。2Q 以降はその影響が薄まっていく形になります。

## 会社概要

会社名 : ポート株式会社  
代表者 : 代表取締役社長 CEO 春日博文  
所在地 : 東京都新宿区北新宿 2-21-1 新宿フロントタワー5 階  
設立 : 2011 年 4 月  
資本金 : 1,172 百万円 (2023 年 6 月末時点)  
URL : <https://www.theport.jp/>

### ■本件に関するお問い合わせ

ポート株式会社 : IR 担当

コーポレートサイト : <https://www.theport.jp/>

E-mail : [ir@theport.jp](mailto:ir@theport.jp) TEL : 03-5937-6731

※当社ではリモートワーク制度を導入しております。  
お電話が通じにくくなる場合がございますので、  
お問い合わせは E-mail までお願いできますと幸いです。